

Japanese Unexamined Utility Model Publication No. 58-184352

Published on December 8, 1983

Title

Auxiliary room mirror for automotive

Summary

In an auxiliary room mirror where fixed downward receivers 3 protruding rearwards from a mirror frame 2 which is provided with a mirror 1 on a front side thereof are disposed on upper left and right sides of the mirror frame 2, movable upward receivers 4 facing the fixed downward receivers 3 are disposed on lower left and right sides of the mirror frame 2, and the movable upward receivers 4 are urged to move resiliently to the fixed upward receivers 3 sides by spring means, the spring means winds a bar spring 5 so that a center part of the bar spring 5 has a spring pressure, hangs the thus formed wounded portion 5a around a spring reception shaft 6 protrudingly disposed on a part of the mirror frame between the left and right receivers, and engages both end spring rod portions 5b of the bar spring 5 in the left and right movable receivers 4, respectively, to thereby urge the movable receivers 4 to resiliently move to the fixed receivers 3 sides.

公開実用 昭和 58— 184352

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭58—184352

Int. Cl.<sup>3</sup>  
B 60 R 1/04  
G 02 B 5/08

識別記号

庁内整理番号  
7443—3D  
7036—2H

⑬ 公開 昭和58年(1983)12月8日

審査請求 未請求

(全 頁)

⑭ 自動車用補助ルームミラー

東京都新宿区板町3番地株式会  
社カーメイト内

⑮ 実 願 昭57—82515

⑯ 出 願 人 株式会社カーメイト

⑰ 出 願 昭57(1982)6月2日

東京都新宿区板町3番地

⑱ 考 案 者 小沢美徳

⑲ 代 理 人 弁理士 佐野義雄



## 明 細 書

1 考案の名称 自動車用補助ルームミラー

2 実用新案登録請求の範囲

ミラーを張設した偏平横長状鏡枠の上辺左右側に鏡枠の後方に突出する下向きの固定掛顎を、且下辺左右側に上記固定掛顎に対向する上向きの可動掛顎を夫々設け、可動掛顎をバネ手段により上記固定掛顎側に弾撥移動付勢するようにした補助ルームミラーにおいて、上記バネ手段が、1本の棒ばねの中央部を巻回してこの巻回部を左右掛顎間の鏡枠部分に突設したバネ受軸に遊挿させ、棒ばねの両端バネ杆部を上記左右の可動掛顎に夫々係合したことを特徴として成る自動車用補助ルームミラー。

3 考案の詳細な説明

本考案は、自動車車内の既設ルームミラーに装着使用する補助ルームミラーの特に既設ルームミラーの上、下辺を弾性的に挟合させるための掛顎のパネ手段の改良に関する。

先ず図面に就いて実施例の詳細を述べる。

正面側にミラー(1)を張設した鏡枠(2)の上辺左右側に鏡枠(2)の後方に突出する下向きの固定掛顎(3)を、且下辺左右側に上記固定掛顎(3)に対向する上向きの可動掛顎(4)を夫々設け、この可動掛顎(4)をパネ手段により上記固定掛顎(3)側に弾搬移動付勢するようにした補助ルームミラーにおいて、上記パネ手段が、1本の棒ばね(5)の中央部をパネ圧を有するように巻回してこの巻回部(5a)を左右の掛顎間の鏡枠部分に突設したパネ受軸(6)に遊挿させ、棒ばね(5)の両端パネ杆部(5b)を上記左右の可動掛顎

(4)に夫々係合させ、もつて該可動掛顎(4)を固定掛顎(3)側に弾撥移動付勢したものである。

尚、上記可動掛顎(4)は本例では作動板(4a)に取付けられ、この作動板(4a)はミラ(1)と対向する鏡枠(2)の内側壁面にこの壁面に設けたガイドピン(1a)と作動板(4a)の長孔(4b)とを係合させて上下摺動可能に沿接され、そして該作動板(4a)の上端にバネ掛部(4c)を屈折形成してこのバネ掛部(4c)に上記棒ばね(5)のバネ杆部(5b)がスライド可能に係合されている。又作動板(4a)の上端は鏡枠(1)に設けた上昇規制用ストッパ(1b)を臨ませてある。

よつて以上のように構成された補助ルームミラ-Aを既設ルームミラ-Bに取付けるには可動掛顎(4)と固定掛顎(3)との間に既設ルームミラ-Bの上下辺を棒ばね力に抗して圧力的に挟合させると

とにより補助ルームミラー-Aは既設ルームミラー-Bに装着保持されるものである。

ところで、従来のこの種補助ルームミラーのパネ手段は左右の可動掛顎にパネを個々に掛ける手段が採られていたため、例えばオ<sup>4</sup>図のような両側が細巾となる変形既設ルームミラー-Bに補助ルームミラー-Aを必要上一側寄りに偏して取付けた場合、可動掛顎(4)の片方が強く、(図で左方)他方が弱い挟合力となるつまり左右のパネ圧が均一とならず、そのため補助ルームミラーが自動車走行中の振動でズレると云う問題を生じた。

そこで、この考案では補助ルームミラーがどのような装着状態でも常に左右のパネ圧が均等となるように工夫したもので、上述のようにパネ手段として、1本の棒ばねの中央部を巻回し、この巻

回部 (5a) を左右の掛顎間の鏡枠部分に突設したバネ受軸 (6) に遊挿させ、棒ばねの両端バネ杆部 (5b) を左右の可動掛顎に夫々係合させたので、才 4 図の例で補助ルームミラー - A を変形既設ルームミラー - B の一側寄りに装着する場合、左右の可動掛顎 (4) を付勢するのは共通 1 本のばねであることゝ、このばねの中心がバネ受軸 (6) にフリーに遊挿されているため左右のバネ杆部 (5b) がどのように撓んでも棒ばねの全体圧は常に均等関係を保ち、従つて左右掛顎が確実に既設ルームミラーの上下辺を挟合捕捉し、もつて自動車走行中の振動などによつて生じ易い補助ルームミラーのブレをなくすことができたものである。

併せて、部品点数も少なくて済むなど従来のこの種補助ルームミラーにては望み得ない秀れた実

用上の効果を有するものである。

4 図面の簡単な説明

オ<sup>1</sup>図は一部切欠正面図、オ<sup>2</sup>図は全上側断面図、オ<sup>3</sup>図は背面図、オ<sup>4</sup>図は説明図である。

- (1)・・・ミラー、(2)・・・鏡枠、(3)・・・固定掛額、  
(4)・・・可動掛額、(5)・・・棒ばね、(6)・・・バネ受軸、  
(sa)・・・巻回部、(sb)・・・棒ばねの両端バネ杆部。

実用新案登録出願人

株式会社カ-メイト

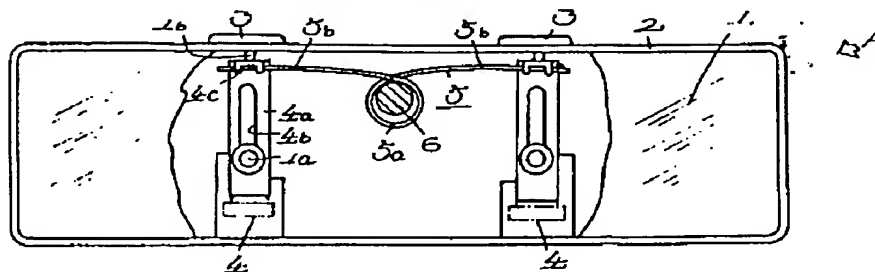
代理人

佐 野 義

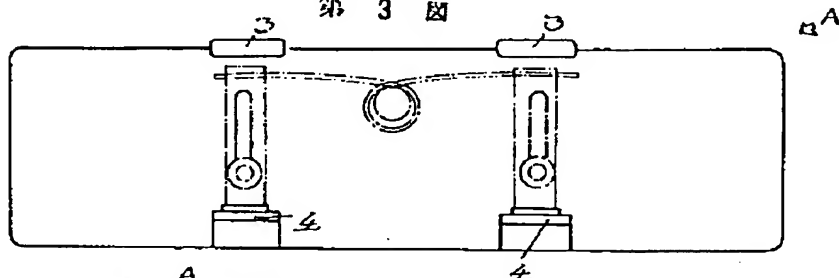




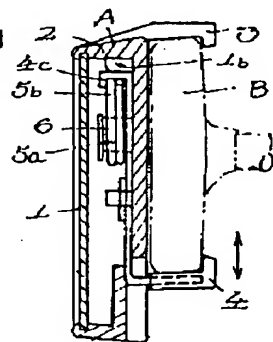
第 1 図



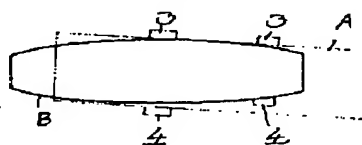
第 3 図



第 2 図



第 4 図



525

英用新案登録出願人 株式会社力ノイ  
代理人 佐野 義雄